

Environmental Report  
環境報告書

2011

## ごあいさつ



近畿環境保全株式会社 代表取締役社長  
株式会社湖南リサイクルセンター 代表取締役

### 西村 忠浩

はじめに、3回目の環境報告書の発行にあたり、ステークホルダーの皆様には多大なるご理解とご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

また、本年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被害に遭われた皆さま、そのご家族に、心からお見舞いを申し上げます。

さて、私たちは「人と地球にいいコミュニケーションパートナー」をキャッチフレーズに、日々、ステークホルダーの皆さまとの継続的な発展と、よりよい関係構築を目指し活動しています。廃棄物という事業活動のアウトプットに対し、本気で向き合い、責任を背負うことで、企業・地域の皆さまとの半世紀近くにわたる信頼を築いてまいりました。現在、時代は転換期を迎えています。世界経済全体のバランスが崩れ、中国始め新興国の台頭が、日本のものづくりに影響を与えています。

今後は更にお客様のニーズにお答えし、事業活動のアウトプットである廃棄物処理のみならず、エンドユーザー様のインプットのサービスから考えた安心の「循環型環境サービス」の構築、そしてその品質向上を目指し、進化したキンカングループを体現してまいります。廃棄物処理業者だから出来る、質の高いコンプライアンスサービスを目指します。

最後に、この環境報告書をステークホルダーの皆様が手にとって頂き、私たちとの「いい」コミュニケーションの構築の一助になれば幸いです。スタッフ一同、心よりご意見・ご感想をお待ちしております。

## 東日本大震災について

2011年3月11日、東北地方に大地震が発生し、家屋の倒壊や火災だけでなく、津波による甚大な被害が起きました。今なお復興への道のりは遠く、原発事故の問題も重なり、まさしく国難と言うべき事態に陥っています。

私たちキンカングループは、支援活動の一環として、社内のスタッフからの義捐金活動や、地域の諸団体と協力しての支援活動に参加して来ました。また私自身、所属しております社団法人草津青年会議所の理事長という担いの中で起こった震災であります。共に活動する全国の同志とともに、現地への復興支援をさせて頂き、その現状を目の当たりにし、被害の大きさに言葉を失いました。この国難を乗り越えるためには、全員が力を合わせ、更に継続的な支援活動が必要だと考えます。

今後も引き続き、私たちキンカングループは、復興支援活動を継続して参ります。  
「がんばろう NIPPON 確かな一歩を踏み出そう」



被災地において支援活動中



青年会議所の皆さんとともに、気仙沼にて



草津の「東日本大震災スモールプロジェクト」に協力し、事務所に義援金箱を置いています。



## 目次

### 会社概要

【社名】近畿環境保全株式会社

【本社所在地】

〒525-0041 滋賀県草津市青地町196

【会社設立】昭和50年6月11日

【資本金】16,000,000円

【ホームページ】www.kin-kan.co.jp

【グループ会社概要】

株式会社湖南リサイクルセンター

株式会社きびら

有限会社ラゴ

【事業内容】

一般廃棄物収集運搬業

一般廃棄物中間処理業

産業廃棄物収集運搬業

産業廃棄物中間処理業

特別管理産業廃棄物収集運搬業

資源物再生事業／建設解体業

リフォーム・外構工事／環境機器販売

【従業員数】65名

【報告対象期間】

2010年度(2010年5月1日～2011年4月30日)

※関連する報告で一部この期間が前後している場合もあります。

【報告対象組織】

キンカングループ全社(4社)

【参考にしたガイドライン】

環境省「環境報告書ガイドライン(2007年版)」

【発行日】

2011年10月

03. 基本理念、沿革

04. 事業内容

05. キンカングループ施設紹介

08. キンカングループ車輛紹介

09. EMS(環境マネジメントシステム)

11. 環境マネジメントへの取り組み

1. 安心・安全なコンプライアンス
2. 安心・安全な事業エリア
3. 安心・安全な仕事環境づくり
4. 安心・安全な施設づくり
5. 目的・目標
6. 維持管理目標

19. 私たちの取り組み

1. バイオディーゼルプロジェクト
2. カーボンオフセット
3. グリーン電力
4. グリーン購入
5. チャレンジ25

21. 環境保全活動

1. 森林づくりパートナー協定
2. ヨシでびわ湖を守るネットワーク
3. 清掃活動

23. 地域とのコミュニケーション

1. 環境学習
2. キンカンセミナー
3. びわ湖環境ビジネスメッセ
4. MIO びわこ草津の応援

25. 循環型社会の構築に向けて

1. 資源物で琵琶湖の環境保全
2. 滋賀レイクスターズの応援
3. 「よみうりくさつの森」プロジェクト
4. エコキャップ推進活動
5. 資源物回収運動(キンカン環境ポイント制度)

28. 受賞報告(私たちの誇り)

29. 「環境報告書2010」アンケート集計  
第三者のご意見

30. あとがき・作成者コメント

## 基本理念 3K

### 環境の

私たちの活動指針は、環境です。  
迷ったときは環境を最優先に  
物事を運びます。

### 感動の

私たちが行動を起す源は、  
感動です。感動がないと、  
人は動きません。

### 改革の

私たちが考えているのは、  
常に改革です。改革なくして  
発展はありません。

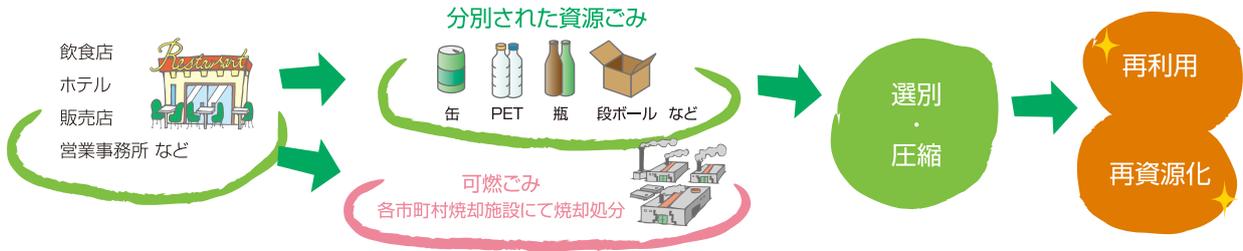
この気持ちをスタッフ全員が心に刻み、  
積極的に挑戦していくグループであり続けます。

### 沿 革

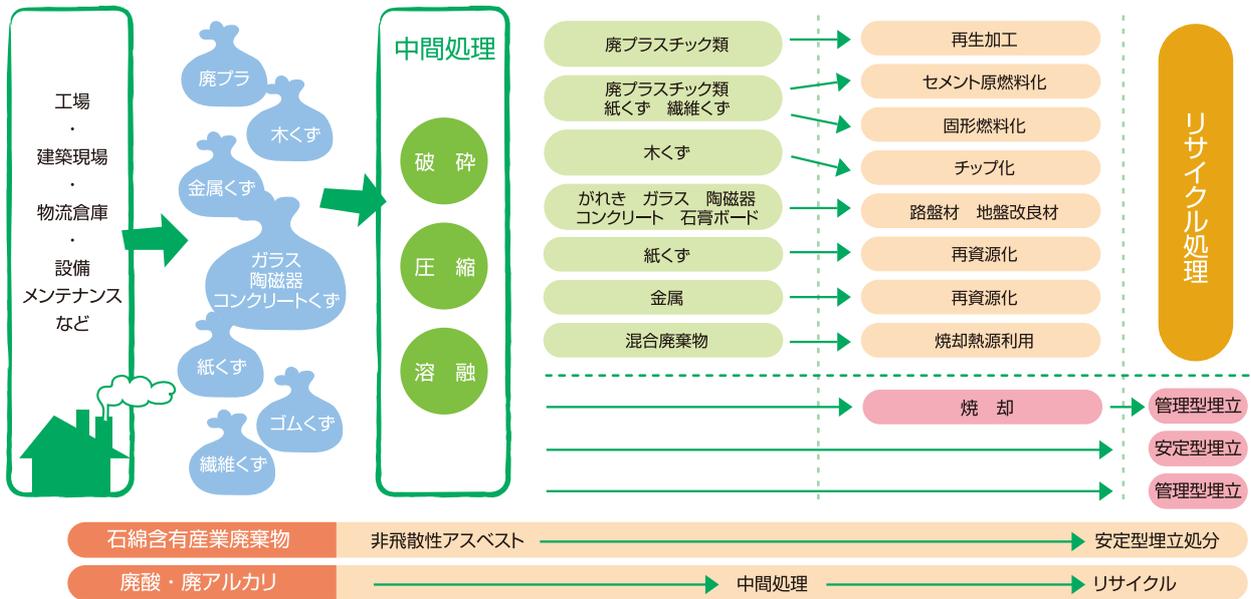
- 昭和37年5月 創業者の西村裕司が「西村商店」として京都市内で廃棄物回収の事業を始める。
- 昭和50年6月11日 近畿環境保全(株)を設立。
- 平成6年9月28日 滋賀県で産業廃棄物中間処理業の許可を取得。破碎機と焼却炉で事業を開始。
- 平成10年6月16日 中間処理業の許可に品目追加。【廃プラスチックと感染性廃棄物の焼却】
- 平成13年3月22日 「有限会社新生」を設立。プラスチックリサイクル事業に本格的に乗り出す。
- 平成14年12月27日 湖南市に「近畿環境保全(株)石部リサイクルセンター」を竣工、平成15年度、本格的に事業開始。
- 平成17年5月27日 石部リサイクルセンターを別法人に分社化、「(株)湖南リサイクルセンター」として現在に至る。  
この時に子会社の新生も合併。総合リサイクルセンターとして事業拡大。
- 平成20年4月 (株)きぶらを設立し、5月より廃木材をチップ化しリサイクルする新工場を竣工。
- 平成21年9月 西村忠浩が近畿環境保全(株)の代表取締役社長に就任。  
西村裕司が近畿環境保全(株)の代表取締役会長に就任。
- 平成23年6月 (株)きぶらの木材チップ製造施設を(株)湖南リサイクルセンターに譲渡。  
湖南リサイクルセンターにおいて、木くずの破碎施設許可を追加取得。

# 事業内容

## 事業系一般廃棄物（収集運搬）



## 産業廃棄物（収集運搬・中間処理）



## 特別管理産業廃棄物（収集運搬）



## 建築解体業



当社グループ内で解体から廃棄物の収集運搬、処理まで一貫施工

# 湖南リサイクルセンター

## ゼロエミッション工場



株式会社湖南リサイクルセンターでは産業廃棄物処理と再資源化を行っています。

廃プラスチック類、木くず、紙くず、繊維くず、ガラス・陶磁器・コンクリートくず、金属くずなど全部で8品目を取り扱います。

中間処理を行い、マテリアルリサイクル、サーマルリサイクル、有価物の売却や残渣を適正処理いたします。

## 廃プラスチック類のマテリアルリサイクル

搬入される廃プラスチックから有価物のプラスチックを当工場で粉碎、圧縮、熔融加工し、国内外に売却しています。また、塩ビパイプ専用の粉碎機を持つことで、更にリサイクル率を向上させています。処理されたプラスチックは国内外にてペレット化され、新しいプラスチック商品に生まれ変わります。



## 廃プラスチック類のゼロエミッションリサイクル

### セメントリサイクル

マテリアルリサイクルに適さない廃プラスチックを圧縮し、トクヤマセメントで原料及び燃料化しています。

100t/日  
処理能力

廃プラスチック類(塩ビを除く)

### 圧縮処理



プレス梱包された廃棄物

ゼロ  
エミッション  
達成

(株)トクヤマにてセメントの  
原燃料化としてリサイクル

### 固形燃料(RPF)リサイクル

廃プラスチック、紙くず、繊維くずやその混合物は圧縮処理後、RPF 製造工場で固形燃料化され、製紙会社のバイオマスボイラーにて使用されます。

100t/日  
処理能力

廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず  
(塩ビを除く)

### 圧縮処理



プレス梱包された廃棄物

製紙会社にて  
バイオマスボイラーに  
使用しリサイクル



固形燃料

### サーマルリサイクル

セメントにも、RPFにも適さない廃棄物は、当社にて破碎処理後、発電や廃熱利用を行うサーマルリサイクル施設で利用されます。焼却後の残渣もメタル・スラグとして利用されています。

200t/日  
処理能力

廃プラスチック類、金属、木くず、紙くず等  
混合物廃棄物、複合廃棄物

### 破碎処理



破碎処理された廃棄物

排熱を発電に利用後、  
灰をスラグ・メタルとしてリサイクル

## 木材チップ用破碎施設



## 木くずの再利用・リサイクル

2009年に設立した株式会社きぶらの木材チップ製造施設を2011年6月に湖南リサイクルセンターに譲渡し、木くず破碎施設許可を追加取得しました。

種類ごとに搬入された木くずを、破碎施設によりチップ化します。木材チップが製紙や堆肥として利用されています。原料にならないものはバイオマスボイラーの燃料や、建材原料として活用しています。自然の大事な恵みを有効に再利用することを目的に、木材のリサイクル率の100%を目指しています。



木くずを有効にリサイクルします。

製紙原料や  
堆肥となる  
純木パレット、  
梁、柱材など



バイオマスボイラーや  
建材原料となる合板、  
腐敗パレット、生木、  
枝葉、刈草など



1 重機で木くずを投入します。



2 木くずを粉碎してチップを製造します。



5 木材チップ運搬車にて出荷



4 できあがった木材チップ



3 釘などの金属は磁選機により分けられます。

ゼロ  
エミッション  
達成

- 製紙原料チップ
- 堆肥



- バイオマスボイラー燃料チップ
- 建材原料



▶ 有価物として売却されます。

# 資源循環センター



ダンボールや故紙、空き缶、発泡スチロール、ペットボトル等の資源物をリサイクルする再生施設です。可燃ごみの収集車とは別に2tアルミ車にて収集を行い、資源物を巡回回収しています。お客様の持込み搬入に対応しており、有価物として買取しています。



資源循環センターは資源物に特化したリサイクルセンターです。



処理した資源物はすべて有価物として販売しています。

# 車輛紹介



## 最適な車輛を手配し、お客様のもとへ

キンカングループが保有する運搬車輛の種類は以下のように豊富です。幅広くお客様のニーズと出される廃棄物に合わせ、最適な車輛を手配し、お客様のもとへお伺いいたします。

### 15t 低床WING 車

台数：1台(15t)



段積み、リフトでの積み込みが可能です。小コンテナやフレコンバッグなどの積み合わせにも適しています。一度に多量の荷物を運ぶことができます。

### 平ボディ車

台数：1台(9t)



コンテナやフレコンバッグなどの小サイズ容器の積み合わせが可能です。

### パッカー車

台数：1台(9t)、10台(4t)



圧縮しながら積み込みする車輛です。重量は軽いけれど圧縮できる廃棄物を、大量に積み込むことができます。

### ユニック付平ボディ車

台数：1台(4t)



ユニックで釣り上げての積み込みが可能ですので、リフトをお持ちでないお客様のもとへもお伺いできます。様々なコンテナの積み合わせや小コンテナの交換が可能です。

### ユニック付アームロール車

台数：1台(4t)



ユニックが付いているので、お客様のもとに8m<sup>3</sup>あるいは6m<sup>3</sup>コンテナと同時に小コンテナも設置することが可能です。リフトをお持ちでないお客様のもとへもお伺いします。

### 2tアルミ車、軽トラック車

台数：各2台



資源物の回収に最適です。お客様の廃棄物の中から分けていただいた資源物を丁寧に運搬し、後ほど効率よくリサイクルできます。

### アームロール車

台数：3台(10t)、3台(9t)、6台(4t)、2台(2t)



キンカングループのスタンダード車輛です。コンテナ(荷台)がそのまま降ろせ、廃棄物排出の都度、コンテナに投入していただけます。コンテナ交換が可能です。

### タンクローリー

最大容量：9700ℓ



廃液用にタンクローリーを追加し、新たに廃液収集運搬をスタートしました。



### 計量器付きパッカー車

台数：1台(3t)



巡回回収を行っていても、個別に重量計量ができる計量器付きのパッカー車です。

### アームロール車の特別コンテナ

**【汚泥用コンテナ】**汚泥を運ぶためのステンレス、水密のコンテナです。  
**【ふた付きコンテナ】**イベント会場などで最適です。ふたが付いているので、生ごみを入れても、カラスなどの防止になります。イベントで多量で出る生ごみと資源ごみの分別が簡単にできます。



当社は、資源リサイクルと廃棄物の収集運搬及び中間処理業を3本柱とし、  
適正に再資源化、処理を行う上で、循環型社会の構築に努めます。

## 「人と地球に“いい”コミュニケーションパートナー」

をキャッチフレーズにかけがえない地球を大切にしたい。  
そんな気持ちの実現を目指し、自然との共生を目指します。

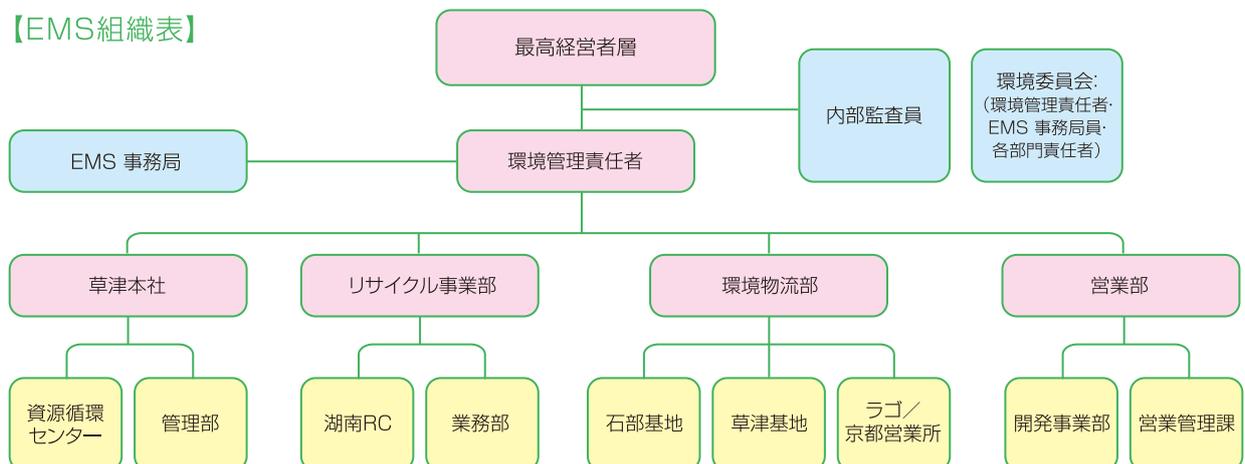
資源  
リサイクル業  
廃棄物の  
収集運搬業  
中間処理業

## 環境活動方針

- 1 廃棄物を資源と認識し、適正に再資源化、再利用、再生利用、処理することに努めます。
  - ① 資源の有効利用と、社内から出る廃棄物の分別及び再資源化に努めます。
  - ② 中間処理後産業廃棄物のリサイクル率向上に努めます。
  - ③ 地域に根ざした環境事業の推進で、地域社会の貢献に努めます。
- 2 環境関連法規制・条例及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
- 3 事業活動から生じる環境負荷を低減するため、具体的環境目的・目標を定め、環境マネジメントシステムを継続的に改善することにより、環境汚染の予防に努め、環境保全活動を推進します。
- 4 全構成員が、環境保全事業に従事する自覚を持ち、常に環境に配慮した行動を心がけるよう周知し、環境に関する教育及び啓蒙を行います。
- 5 本方針を実行し、維持し文書化して、全構成員に周知徹底するとともに、社外にも情報開示します。

2005年9月6日 現在

### 【EMS組織表】



# 主な環境活動の紹介

キンカングループは地域社会との調和を目指し  
さまざまな環境活動を展開しています。



## 環境マネジメントへの取り組み P11

P11. 安心・安全なコンプライアンス P12. 安心・安全な事業エリア P13. 安心・安全な仕事環境づくり  
P14. 安心・安全な施設づくり P15. 目的・目標 P17. 維持管理目標



## 私たちの取り組み P19

1. バイオディーゼルプロジェクト 2. カーボンオフセット  
3. グリーン電力 4. グリーン購入 5. チャレンジ25



## 環境保全活動 P21

1. 森林づくりパートナー協定 2. ヨシでびわ湖を守るネットワーク 3. 清掃活動



## 地域とのコミュニケーション P23

1. 環境学習 2. キンカンセミナー 3. びわ湖環境ビジネスメッセ  
4. MIO びわこ草津の応援



## 循環型社会の構築に向けて P25

1. 資源物で琵琶湖の環境保全 2. 滋賀レイクスターズの応援  
3. 「よみうりくさつの森」プロジェクト 4. エコキャップ推進活動  
5. 資源物回収運動（キンカン環境ポイント制度）

## 環境関連法規制の遵守評価

事業者の産業廃棄物はその事業者自らが処理しなければならない原則がありますが、処理ができない場合は、廃棄物処理業者に委託することができます。当グループは排出事業者の皆さまから、収集運搬と処分を委託して頂きます。様々な地域における収集運搬業許可と処分業許可を取得し、法を遵守した適正処理を行っている上、廃棄物の流れをマニフェストによって最初から最後まで管理しています。当グループは右記の環境関連法律・条例・協定を遵守しています。

### 法律・条例

- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- 滋賀県生活排水対策の推進に関する条例
- 消防法 ● 建設業法 ● 浄化槽法
- 労働安全衛生法 ● 道路運送車輛法
- 計量法 ● 滋賀県ごみの散乱防止に関する条例
- 騒音規制法・振動規制法・悪臭防止法
- Nox・PM法 ● フロン回収破壊法
- 資源有効利用促進法 ● 石綿障害予防規則
- 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律

### スタッフコメント

法順守は当たり前、環境負荷の低減も当たり前の時代、日本一の琵琶湖を有する滋賀県で業を営む私たちは何が出来るか、環境マネジメントの主な課題です。

基本原則や法律を順守しながら、従業員のスキルアップを目指し、お客様へのサービス向上、情報開示の取り組みを進めてまいります。



コンプライアンス室 室長  
永戸 浩一

廃棄物処理の際に発生する騒音、臭気、振動が周辺の方々にご迷惑がからず、環境への負担も少なくするために、騒音、振動と臭気に関して毎年調査を実施しています。基準に対するレベル状態を評価し、よりよい環境づくりに努力しています。以下に当グループの2010年度のデータを示しています。

### 騒音レベルと振動レベルの調査結果と評価

騒音と振動のレベルに関する調査を毎年一回キンカングループの2社にて行います。2010年度の調査結果によれば、実際の騒音レベルと振動レベルは規制基準値以下でしたので、良い評価となりました。

#### ◎騒音レベル

	湖南リサイクルセンター	近畿環境保全
規制基準	70dB	65dB
調査結果 (場所/No1)	54dB	57dB
(場所/No2)	56dB	54dB
評価	○	○

2010年5月27日実施

#### ◎振動レベル

	湖南リサイクルセンター	近畿環境保全
規制基準	70dB	70dB
調査結果 (場所/No1)	44dB	37dB
(場所/No2)	51dB	33dB
評価	○	○

2010年5月27日実施

### 臭気測定の結果と評価

臭気レベルに関する調査の結果は、規制基準値以下でしたので、良い評価となりました。

	湖南リサイクルセンター 2010年5月27日実施	近畿環境保全 2010年5月27日実施
規制基準	敷地境界線14	12
試験の結果(臭気指数)(場所/No1)	10以下	10以下
(場所/No2)	12	10以下
評価	○	○

### 水質

放流水に関してもデータ管理を行っており、年一回水質に関する調査を自主的に実施しています。

計量対象項目	単位	計量の結果	計量の的方法
ノルマルヘキササン抽出物質含有量	mg/L	0.5未満	環境庁告示第64号付表
大腸菌群数(デソ)※	個/ml	0	厚生省・建設省令第1号
水素イオン濃度		7.5	JIS K0102 12.1
(pH測定時試料温度 ※)	℃	21.4	JIS K0102 7.2
浮遊物質	mg/L	0.5未満	環境庁告示第59号付表
化学的酸素要求量	mg/L	1.9	JIS K0102 17
生物化学的酸素要求量	mg/L	3	JIS K0102 21及び32.3
燐含有量	mg/L	0.1未満	JIS K0102 46.3
窒素含有量	mg/L	0.5未満	JIS K0102 45.2

※印項目は、計量証明対象外項目です。

2010年11月16日実施

# 安心・安全な事業エリア

## 許可都道府県及び許可品目

当グループは産業廃棄物収集運搬、一般廃棄物収集運搬、特別管理廃棄物収集運搬、廃棄物の中間処理に関し幅広く許可を取得しています。2011年4月から滋賀県の湖北地域においても一般廃棄物を回収するようになりました。

燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残渣	ゴムくず	金属くず	ガラス・陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	特管 腐食性廃酸	特管 腐食性廃アルカリ	特管 特定有害廃酸	特管 特定有害廃アルカリ	特管 感染性産業廃棄物	特管 特定有害廃石綿等	品目数
-----	----	----	----	-------	----------	-----	-----	------	--------	------	------	-----------	-----	------	------	-------------	----------------	--------------	-----------------	----------------	----------------	-----

### ◎ 産業廃棄物・特別管理産業廃棄物 収集運搬業 近畿環境保全(株)

※特管:特別管理産業廃棄物

石川県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							14
福井県	○	○				○	○	○	○	○	○	○								○	○	12
岐阜県	○	○				○	○	○	○	○	○	○										2
愛知県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○			15
三重県	○	○				○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○			5
滋賀県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○			14
京都府	○	○				○	○	○	○	○	○	○										5
大阪府	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○			16
兵庫県	○	○				○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○			5
奈良県	○	○				○	○	○	○	○	○	○										16
岡山県	○	○				○	○			○	○	○										5
広島県	○	○				○	○	○	○	○	○	○										10
山口県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										1
香川県						○	○	○	○	○	○	○										9

### ◎ 一般廃棄物 収集運搬業 近畿環境保全(株)

※普通産廃は石綿含有産業廃棄物を含む

守山市、栗東市、野洲市、湖南市、大津市、草津市、彦根市、湖北広域、愛荘町
京都市 (南ラゴ)

### ◎ 中間処理業 近畿環境保全(株)

砕 破	廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラス・陶磁器くず	4
-----	------------------------------	---

### ◎ 中間処理業 (株)湖南リサイクルセンター

破 砕	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラス・陶磁器くず、がれき類	8
破砕(石膏)	陶磁器くず	1
圧 縮	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず	6
溶融(発砲)	廃プラスチック類	1
破砕(一般廃棄物)	廃プラスチック類、木くず、がれき類	3

※2011年10月現在

### 一般廃棄物 収集運搬許可



### 産業廃棄物 収集運搬許可



# 安心・安全な仕事環境づくり

当グループにとって最も重大な事態は火災です。災害時を特定し、緊急事態対応するための手順を決定しています。実際に緊急事態が発生した場合、対応を行なった後、必要であれば手順を見直します。決定された手順が緊急事態の際、順調に実施できるように定期的に社内勉強会と訓練を行っています。

## 2010年10月に本社と湖南リサイクルセンターにて訓練を実施しました。

説明会の後、火災のシミュレーションをし、対応の練習を行いました。



### 安全委員会

安全委員会は「無事故・無災害」という目的で立ち上げられた委員会です。メンバーは営業部、環境事業部（物流部門・資源生産部門）、リサイクル事業部と本社の各担当者であり、月に一回集まります。工場・ドライバー各部所の危険箇所などを挙げ、改善策を話し合っている委員会です。



## 火災以外の事故時に関しても毎年数回訓練や勉強会を行っています。

2010年度にも構内で使用されている重機、リフトによる事故防止訓練と勉強会を実施しました。また、収集運搬の時に発生した油もれの際、すぐに流出を防ぐことが出来る吸着セットを、全車輛に設置しました。またこれの講習も実施いたしました。物流のスタッフとともに、日常安全点検について研修を実施しました。



油もれ対策のために各車輛に設置しています。

### スタッフコメント



生産事業部 主任 吉田 光

毎年、工場で数回にわたり安全講習を行っています。講習では危険予測をし、事故が起こらないようにどうしたらいいか教えていただいています。また、重機を使うので、その基本的なことも含め、訓練をしています。基本的なことでも、復習をしてよかったといつも思います。また、工場の安全を守るために、仲間とのコミュニケーション、意見交換が非常に大事だと思っています。そのために2010年に各部の担当が集まる「安全委員会」を立ち上げ、より良いコミュニケーションと対策づくりができるようになったと思います。そして、一人一人の安全への意識が高まったのと、事故や怪我が減少しましたので、今後も安全委員会の効果を高めていきたいと思っています。

# 安心・安全な施設づくり

## 廃掃法

「排出事業者は、産業廃棄物の運搬・処分を他人に委託する場合には、当該産業廃棄物の処理の状況に関する確認を行った上で、最終処分終了までの一連の処理行程における処理が適正に行われるために必要な措置を講ずるよう努めなければならないこととする。」

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課



今年度に法改正もあり、排出事業者責任は一段と強化され厳しくなりました。

お客様が安心できる処理を提供するために私たちも最終処分地の視察、処理の確認を行っています。最終処分地が適正であると確認した後に、お客様に提案します。

また、廃棄物処理についての情報をお客様に提供するだけでなく、お客様自らが、処理の確認をご希望であれば、当社においても、最終処分地においても視察および確認が随時可能となっております。また、環境学習のために工場見学をしていただくこともあります。

2010年11月にアジア学院の方々がりサイクルの流れを勉強しにいらっしゃいました。



アジア学院は1973年に設立された国際人材養成機関です。アジア・アフリカなどの農村地域の民間開発団体(NGO)から、その土地に根を張り、その土地の人々と共に働く“草の根”の農村開発従事者を学生として招き、自国のコミュニティの自立を共に目指す指導者を養成しています。(アジア学院ホームページより)

## 適正な処分地をお客様にご提案します。

当社において廃棄物の中間処理が行われた後、処理された廃棄物は処分地に運搬されます。お客様が安心できる処理を提供するために当社も最終処分地の視察、処理の確認を行っています。最終処分地が適正であると確認した後に、お客様に提案します。



### スタッフコメント



リサイクル処理先、最終処分先の確認は、我々はもちろん、排出事業者であるお客様にとっても大変重要なことです。お忙しい中、処分先の確認に現地へ行けないお客様に代わり、プロの目線でしっかりと処分先を確認してまいります。

また、当社の視察はもちろん、お客様との処分先の視察同行をすることも致します。ぜひ、お声かけください。

営業部営業管理課 課長 西村 篤

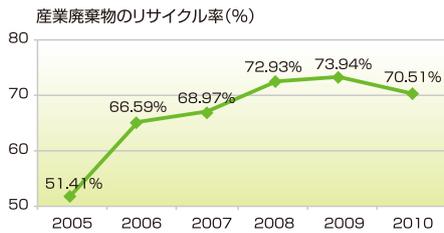
# 目的・目標

## 湖南リサイクルセンター

### 産業廃棄物のリサイクル

70.5%  
リサイクル率  
目標達成

産業廃棄物の中間処理に特化した湖南リサイクルセンターにて年々リサイクル率を上げています。細かい選別やリサイクル先と再利用の方法の増加により環境へ配慮した処理を行っています。また、お客様にゼロエミッションを提案し、廃棄物のゼロ化にご協力いただいています。2011年度の目標は7割であり、実際のリサイクル率は70.5%でした。

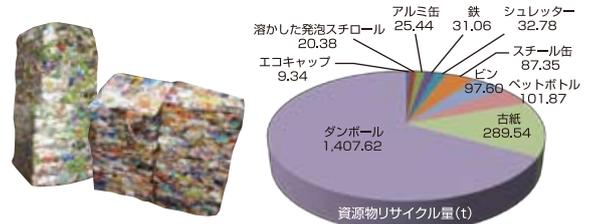


## 資源循環センター

### 資源ごみのリサイクル

11%  
リサイクル量  
増加達成

2009年より資源物の処理に特化した資源循環センターにて年々資源物の搬入が増えています。2010年度には3%増加の目標を超え、缶、ペットボトルとビンのリサイクル量は昨年より11%増加しました。



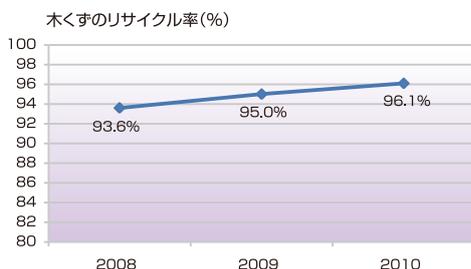
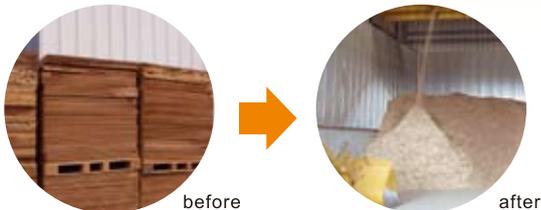
リサイクル率UP!

## 木材チップ化施設

### 木くずのリサイクル

96%  
リサイクル率  
目標達成

2009年より木材チップ創造施設を運営し、自然の恵みの木を大切に再利用できるように努めています。2010年どのリサイクル率は96%で目標の9割を超えました。今後は100%を目指します。

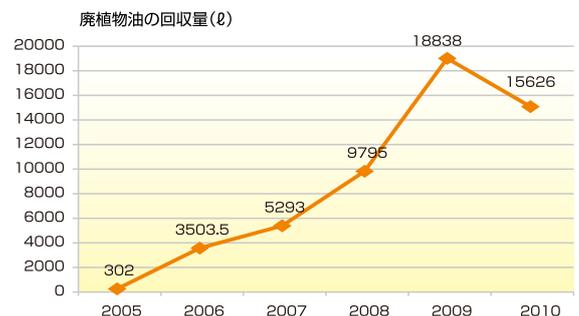


## 廃てんぷら油の回収

### 油のリサイクル

195%  
油回収量  
増加達成

廃てんぷら油のリサイクルを推進し、当社が廃油を回収し、バイオディーゼル燃料を自車両にも使用しています。年々廃てんぷら油をリサイクルに回していただいているお客様が増え、活動がCO<sub>2</sub>削減への取り組みにも使われています。2010年度の回収量は2007年度からの3%増加目標を超え、約15,626リットルでした。





当グループは2005年に環境マネジメントシステムのISO14001を取得しました。毎年、環境へ与えている負担を把握し、それを削減するために、年々高い目標を立てて環境経営を行っています。2010年度にはリサイクル率をさらに高めることやグリーン購入率、スタッフの環境ポイントの増加などを目指して、達成できました。

## 低公害車輛の導入

1台  
低公害  
車輛購入

2010年度には低公害車輛を新たに購入しました。Nox・PM対応車の導入により、運搬の際の有害ガスの排出を抑え、燃費もよくなっています。



80ポイント  
環境ポイント  
目標達成

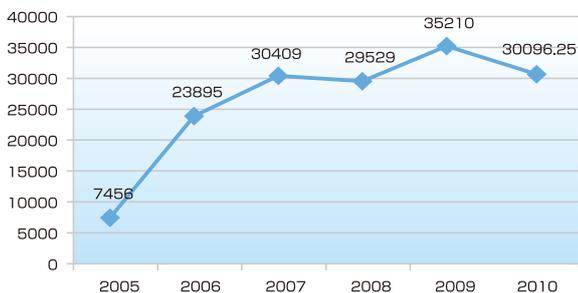
## 環境ポイント運動

2005年よりスタッフの取り組みとして、毎年継続して資源物回収運動を行っています。現在ISO14001の目標の一つであり、年々目標のポイントを上げています。2010年度の目標数字は一人当たり80ポイントであり、スタッフの95%が目標を達成できました。合計30096ポイントが与えられました。



毎日の  
積み重ねが  
大事!

環境ポイント(2005~2010)



## グリーン購入率

41.7%  
グリーン購入率  
目標達成

2009年よりグリーン購入ネットワークの会員として、文具や事務用品を購入する際、できるだけ環境配慮型商品になるよう選択しています。2010年度では、購入金額の3割を目標に掲げていましたが、41.7%がグリーン購入となり、目標を達成しました。

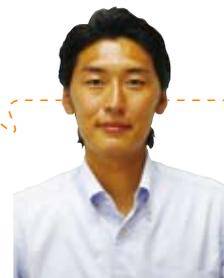


### スタッフコメント

営業部の目的目標として木くず、廃食油の回収量拡大を始めて3年が経ちました。

この目的目標を取り入れる際に弊社の努力だけでは達成し続ける事が困難で、反対していたことを思い出します。しかし、結果的に事業活動と上手く結び付き、この目的目標を取り入れてから回収量も徐々に上がりました。特に廃食油の回収量が飛躍したことがとても印象的です。

どの目的目標も事業活動に上手く絡めていき、企業、営業部として成長と顧客の拡大に繋げていければと考えています。



営業部責任者  
西村 幸佑

# 維持管理目標

当社では、事業をしている中で、どうしても削減・増加しにくい、あるいは削減・増加の目標をたてることのできない項目については、維持管理を行い、データにより項目の状況を把握しています。そういったことにより項目を意識し、なるべく削減・増加できるように心がけています。2010年度の維持管理項目を6つとし、CO<sub>2</sub>の排出量、BDF給油、LPガス・電気・水道の消費量、紙の使用料・排出量、車輛燃費、重機燃料についてデータ管理を行いました。

## CO<sub>2</sub>の排出量

2010年度に当社から排出されたCO<sub>2</sub>は昨年より増加しましたが、カーボンオフセットやBDF使用、グリーン電力の使用によってCO<sub>2</sub>を合計約34t減らしました。



当社のCO<sub>2</sub>排出量(t)

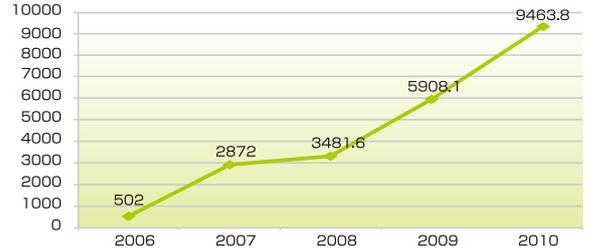


## BDF給油

当社では廃植物油を回収しており、回収量は年々増加しています。回収された廃植物油は、油藤商事株式会社にてバイオディーゼル燃料(BDF)に精製されます。そのBDFを当社の収集運搬車輛に使用することで、循環型社会の実現に貢献するとともに、二酸化炭素の排出抑制にも一躍を担っています。



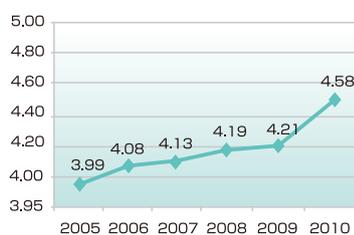
BDF燃料使用量(ℓ)



## 車輛燃費

廃棄物の収集運搬では燃料消費により環境への負荷が生じます。そこで、収集運搬の際、燃費が上がるように努めています。その結果、燃費は年々向上し、2010年に4.58km/ℓとなりました。低公害車輛、低燃費車輛の導入やエコドライブへの心がけなどが燃費向上に繋がったと考えられます。

収集運搬車輛の燃費(km/ℓ)

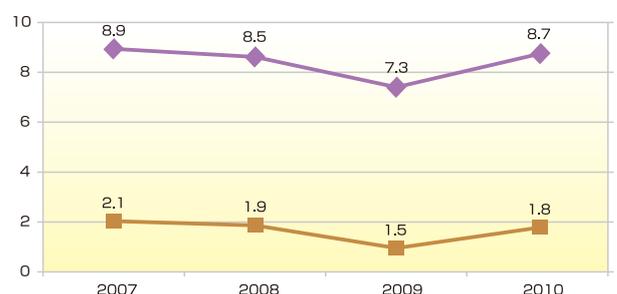


## 紙の使用量

紙は事務所で必要不可欠なものです。なるべく使用量を減らし、裏紙を使うようにしています。使用済み古紙を当社資源循環センターにて圧縮し、製紙会社に売却しています。



紙の使用量・排出量(kg/人)



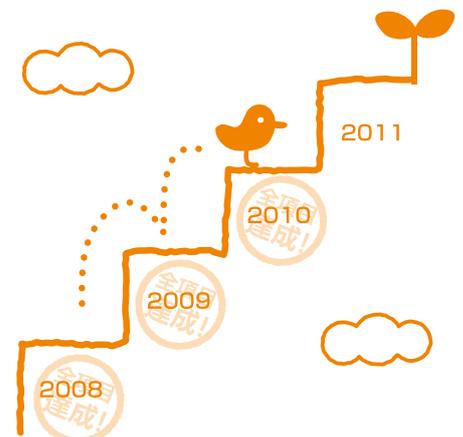
# 目的目標・維持管理結果表

## 目的目標の達成状況

タイトル	環境方針	環境目的	環境目標			
			2008年度末	2009年度末	2010年度末	2010年度末現在
環境ポイント制度	地域に根ざした環境事業の推進で地域社会の貢献に努めます。	全構成員は環境ポイントを2010年までに200ポイント以上獲得する(2008年度50P・2009年度70P・2010年度80P)	50P以上 合計50P	70P以上 合計120P	80P以上 合計200P	◎
グリーン購入		事務用品のグリーン購入比率を30%以上を維持する(2008年度初年度の為20%とし、段階的に引き上げる)	20% 達成	25% 達成	30% 達成	◎
資源ゴミ(有価物)の排出	資源の有効利用と社内から出る廃棄物の分別及び資源ゴミの再資源化に努めます。	2010年度末までに、有価資源ゴミの排出数量を3%向上(2007年度缶ビンペット排出実績 118.6t)	1%向上 119.8t 達成	2%向上 120.9t 達成	3%向上 122.16t 達成	◎
廃棄物のリサイクル率向上	中間処理後産業廃棄物のリサイクル率向上に努めます。	中間処理後産業廃棄物のリサイクル率の向上。2010年度末までに70%達成(2008年基準値 湖南RC:55%)	60% 達成	65% 達成	70% 達成	◎
資源ゴミ(有価物)の排出	資源の有効利用と社内から出る廃棄物の分別及び資源ゴミの再資源化に努めます。	木くず受入量と資源ごみ(チップ)排出量の比を90%以上を維持する。	—	—	90% 達成	◎
新型車輛の購入		Nox・PM対応車を2010年までに4台増車する(2008年から2010年)	4台			◎
環境配慮の処理処分の提供	地域に根ざした環境事業の推進で地域社会の貢献に努めます。	廃食油の回収量拡大2010年度末までに3%向上(廃食油回収量2007年実績 5293ℓ)	1%向上 5345.9ℓ 達成	2%向上 5398.9ℓ 達成	3%向上 5451.8ℓ 達成	◎
環境配慮の処理処分の提供	地域に根ざした環境事業の推進で地域社会の貢献に努めます。	木くずの回収量拡大2010年度末までに3%向上(木くず回収量2007年実績 2028t)	1%向上 2048.3t 達成	2%向上 2068.6t 達成	3%向上 2088.8t 達成	◎

## 維持管理項目の状況

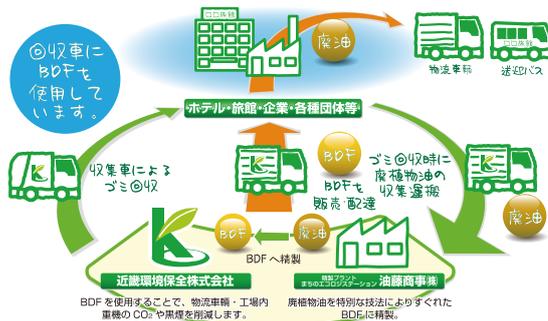
	数量	単位	昨年よりの変化
LPガス消費量	58.6	m <sup>3</sup>	30%減
電気消費量	300112	kWh	3%増
水道消費量	3479	m <sup>3</sup>	39%増
紙の使用量	8.707	kg/人	19%増
紙の排出量	1.83	kg/人	26%増
車輛燃費	4.58	ℓ/km	9%増
重機燃料使用量	39884	ℓ	4%減
BDF給油	9463.8	ℓ	60%増
CO <sub>2</sub> 排出量	910.78	t	3.7%増



# 私たちの取り組み

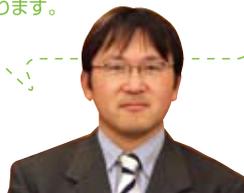
## BDFプロジェクトの紹介 24.8t CO<sub>2</sub>削減

2006年から廃植物油を回収しています。彦根にある油藤商事株式会社で廃植物油を精製し、作られたバイオディーゼル燃料(BDF)を収集運搬車輻に使用しています。当社物流では、燃料を多く使用しているため、環境への負担をできるだけ削減するように努めています。BDFは、「カーボンニュートラル」な燃料、つまり追加に二酸化炭素を排出していないため、軽油使用時と比べると、2010年度に24.8トンのCO<sub>2</sub>を削減することができました。  
(※当社BDF使用量\*0.00262⇒排出係数はH18年度環境省ホームページより)



### パートナー企業コメント

近畿環境保全さんとは長くお付き合いをさせて頂いておりますが、廃棄物業界の中でも次世代を見据えた事業展開にいつも刺激を戴いております。当社とは、廃食用油回収・そしてパッカー車へのバイオディーゼル燃料の供給でのお付き合いを戴いております。  
東日本大震災後、バイオディーゼルをはじめとする自然エネルギーや再生可能エネルギーはますます注目されています。中でも廃棄物からエネルギーを創出していくことが今後ますます脚光を浴びてくると思います。  
近畿環境保全さんのますますのご活躍をご期待しております。



油藤商事株式会社  
専務取締役  
青山 裕史 様

### BDFプロジェクトお客様

おごと温泉組合様 西日本高速道路メンテナンス関西様

廃植物油の回収を様々なお客様のご協力により行っていますが、その中で、おごと温泉組合様に協力していただき、油を定期的なコースで回収しています。効率的な廃油回収活動によりCO<sub>2</sub>削減ができ、更に地域の活性化にも繋がります。また、廃油を回収し、BDFを車輻に使用していただいている西日本高速道路メンテナンス関西様においては、油の循環にも貢献していただいております。



## カーボンオフセット 67.8kg/年 CO<sub>2</sub>削減

環境への負荷を削減するために、2008年5月から内モンゴルにてカラマツの植林を行っています。植林により当社のCO<sub>2</sub>排出量の約5%をカーボンオフセットしています。カラマツ1本が30年間で吸収できる二酸化炭素量はおよそ250kgであると言われています。当社で、月に約8本のカラマツを植林しております。植林を通して、地球温暖化防止だけでなく、砂漠化進行の防止や土壌回復による生物多様性の確保など地球環境の保全にも努めています。スタートから2010年度末まで288本のカラマツを植林しました。それは、合計約200kgのCO<sub>2</sub>削減に相当します。



キンカンの森

## グリーン電力 9t CO<sub>2</sub>削減

当グループの中核を担う株式会社湖南リサイクルセンターの工場は使用電力の10%をグリーン電力でまかっています。省エネ・CO<sub>2</sub>排出削減を可能にした環境配慮型のリサイクル工場を実現しています。グリーン電力を利用することにより2010年度に約9トンCO<sub>2</sub>を削減できました。



### グリーン電力とは?

グリーン電力とは、温室効果ガスや有害ガスの排出が少なく、環境への負荷が小さい自然エネルギー、バイオマスによって発電された電力です。

## グリーン購入

私たちの事務所では、多くの事務用品を使っています。2009年度よりグリーン購入ネットワークの会員としてできるだけ環境へ配慮した事務用品を購入するようにしています。2010年度に購入した商品の中で41.7%がエコ商品でした。年々割合を増やしていく予定です。



### スタッフコメント

事務所で使用する事務用品を購入する際は、極力グリーン購入マークやエコマークのついた環境へ配慮されている商品を選ぶようにしています。また、事務所の不要な照明を消したり、エアコンの設定温度を夏は28℃、冬は20℃にするように心がけています。職場で行うだけでなく、最近では自宅でも実践できるようになりました。今後もエコな生活を意識し、取り組んでいきたいと思っています。



営業管理課  
櫻井 美沙

## チャレンジ25



キンカングループは地球温暖化防止国民運動、チャレンジ25キャンペーンに参加しています。オフィスにおいて実践できるCO<sub>2</sub>削減に向けた具体的な行動を決め、6つのチャレンジを次のように実施しています。

- チャレンジ 1 エコな生活スタイルを選択しよう**  
当グループではクールビズやウォームビズを実践し、またスタッフはマイカップを使用しています。
- チャレンジ 2 省エネ商品を選択しよう**  
グリーン購入ネットワーク会員として、環境への負担が少ない商品を選ぶようにしています。
- チャレンジ 3 自然を利用したエネルギーを選択しよう**  
当グループの中核を担う株式会社湖南リサイクルセンターの工場は、使用電力の一部をグリーン電力でまかっています。
- チャレンジ 4 ビル・住宅のエコ化を選択しよう**  
エアコンを定期的に掃除し、環境への負担が少ない設定温度を、保つようにしています。

温暖化防止のため、ゴーヤカーテンとアサガオカーテンに取り組んでいます。



草津本社



湖南リサイクルセンター

- チャレンジ 5 CO<sub>2</sub>削減につながる取組を応援しよう**  
植林によるカーボンオフセット、バイオディーゼル燃料の使用によるカーボンニュートラル、グリーン電力の使用、ペットボトルキャップの分別によりワクチンを寄附できるエコキャップ推進活動への参加、そして、滋賀県の森林づくり活動などによりCO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。
- チャレンジ 6 地域で取組む温暖化防止活動に参加しよう**  
滋賀県の「琵琶湖森林づくりパートナー協定」と「草津市愛する地球のために約束する協定」を結ぶことによって、地域の温暖化防止活動に参加しています。



## 環境保全活動



### 森林づくりパートナー協定



2009年10月6日、当社と㈱エコネット様、㈱服部モータース様の3社が、三雲生産森林組合様との間で「琵琶湖森林づくりパートナー協定」を結びました。  
この協定により、企業が森林づくりにかかる費用や労働力の提供を5年間行うことになり、森林整備の推進が期待されます。  
2010年度には森林づくり作業を2回行いました。



当社はこの協定によって琵琶湖の水源でもある森林を整備することにより、私たちの暮らしの支えとなっている琵琶湖を守ると共に、CO<sub>2</sub>の吸収量を増やし、地球温暖化を防止します。そしてこの活動を通して地域住民の方々との交流を深め、環境に良い地域づくりと共生、基盤づくりをし、未来の子供たちへ健全な自然を残していけるよう努めます。

#### スタッフコメント

普段は仕事を通して環境問題を考えることが多いのですが、間伐や下草刈りなどのこの活動は、実際に森林に手を入れ、自らの手で自然を感じることができます。とても貴重な機会だと感じています。普段は車などで道に迷った時くらいしか山に入ることはないの(笑)、森の中に入ることはとても新鮮です。また、レクリエーションを通して、自然を守る大切さ、自分たちが行っている作業がどのように自然の助けになるのかを学べるので、心のこもった作業に繋がっています。



営業部 吉村 祐香

#### 社員への環境教育

2010年5月に支援している三雲森林において甲賀市森林整備事務所様のご協力のもと、「環境教育とレクリエーション」を行いました。自然の素晴らしさを感じ、自然の中で森のことを学び、楽しむプログラムのなか、自然観察とネイチャーゲームを実施しました。



### 清掃活動



#### びわ湖の日 環境美化活動

7月1日はびわ湖の日。毎年この日に滋賀県全域から数百名の参加者が集い、湖周の清掃活動を行います。滋賀県主催のこのイベントに、当社も毎年参加しています。  
2010年には、湖南・甲賀環境協会様の主催で、湖南市と守山市にてごみ拾い活動を行いました。参加者は434名が390kgのごみを集めることができました。



当社は自然環境との調和を目指す取り組みをしています。愛する滋賀県の愛するびわ湖、大事な自然の環境保全に貢献するように努めています。森林が元気ではないと、水と土は元気にならないという考えのもと、森林づくりから始め、美化活動と水浄化に繋がるヨシ刈り活動を行っています。

## ヨシでびわ湖を守るネットワーク

2010年10月より「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」のメンバーとして、ヨシ刈り活動に参加しています。東近江市と近江八幡市で、西の湖などのヨシを刈り、ヨシの有効利用とびわ湖の浄化を促進しています。



2011  
びわ湖の日

30周年

琵琶湖のような一つの系から、ものを持ち出すことは浄化に働くと考えられます。多年生の草本のヨシは、成長のよい群落の場合、地上部の最大現存量が乾燥重量で $2\text{kg}/\text{m}^2$ にも達します。その植物体には窒素(1-3%)やリン(0.2-0.4%)が含まれていますので、刈り取って持ち出すと琵琶湖を浄化することになります。(滋賀県琵琶湖環境科学研究センターのHPより)



刈り取ったヨシは、紙の原料に再生!

### スタッフコメント

2010年12月と2月にヨシ刈り活動に参加しました。参加当日は朝から雪が降ったりと不安定な天気でしたが、一生懸命に作業しているうちに体がポカポカと汗が出るほどに暖くなりました。ヨシは水を浄化する働きがあるし、刈ったヨシがノートなどの文具にも生まれ変わると聞いて、ヨシが有効的で凄いなと思いました。これからも私達は地元企業の一員として、びわ湖の保全活動に参加していきます。

営業部 黒崎 暢章



### 会社周辺 清掃活動

毎月一回清掃活動を計画・実施し、工場内・工場周り・道沿いにおけるごみ拾い、除草作業などを社員全員で行い、地域美化と地域とのコミュニケーションに貢献できるように努めています。



### 京都市 清掃活動

京都営業所では、清掃活動を通して、京都市の美化に貢献しています。京都環境事業協同組合主催の清掃活動に毎年参加しています。2010年11月8日も京都市におけるごみ拾い活動を行いました。



# 地域とのコミュニケーション

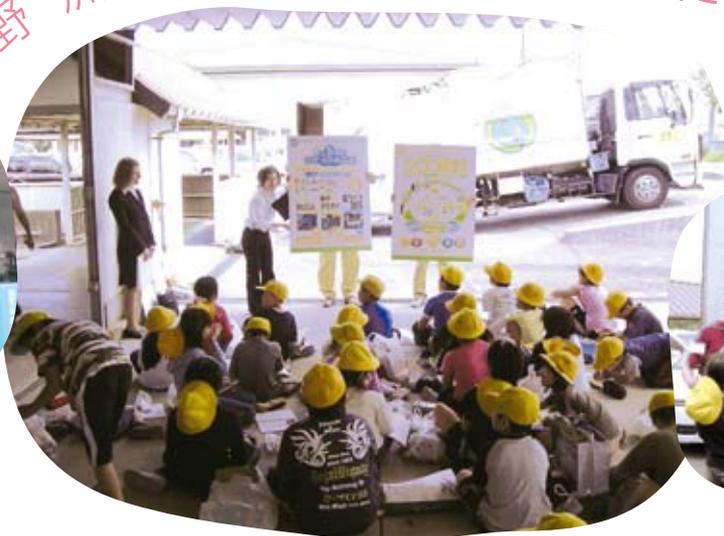
## 1 環境学習

当グループでは2007年から子ども向けの環境学習を実施しています。ごみのこととリサイクルの方法などを次世代の子どもたちに伝えることは、循環型社会への構築につながると信じています。

主な内容はごみ分別とリサイクル方法ですが、実際に当社車両にごみを積める体験をしていただくことによって、ごみ回収と分別された資源ごみ回収を実践することができます。また、廃てんぷら油の精製仕組みを油の本物を見ながら説明していますので、子どもたちは集中してよく聴いてくれています。



## 野洲市立三上小学校にて



2007年から小学校の授業に車輛とともに出張させていただき、毎回たくさん質問をいただいています。子どもたちは年々知識が増えていっていると感じています。また、2010年11月3日に開催された「二五八祭」というイベントにおいてもリサイクル業界の仕事を紹介しました。

## 子ども向けイベントに出展

2010年度に2回子ども向けの環境イベントにて出展しました。守山環境フェスタではエコキャップの回収活動も実施しました。

## 二五八祭にて



守山環境フェスタ

草津市子ども環境会議

### お客様コメント

4年生の社会科で「ごみの処理と利用」という学習があり、近畿環境保全さんのご協力を得て、ごみの収集やリサイクルについて学習を進めました。実際にパッカー車へのごみの積み込み体験をしたことや、運転手さんの苦勞や願いを直接聞くことができたことは、子どもたちにとって、とても貴重な経験となりました。

また、様々な資源をリサイクルされているというお話を聞き、リサイクルについても興味を持つ子どもが増えました。特に、廃油を回収して精製し、収集車の燃料としてもう一度利用されていることには驚いていました。このように、教科書に載っていること以上のことが学習でき、大変良い機会となりました。



野洲市立三上小学校 門坂 エリ 様



## 2 第2回キンカンセミナー

キンカンセミナーの主な目的は、取引先の事業紹介、環境への取り組み、企業間の交流促進、異業種とのコラボレーションです。2010年12月9日に第2回キンカンセミナーを行いました。今回のテーマは「絶対トクする!!エコとコスト削減の両立! タダでLEDに移行するテクニック!」でした。株式会社MASS様にコストの面でも、環境の面でもお得なLEDへの移行についてお話しいただきました。取引先の方々から19名に参加していただきました。今後とも、キンカンセミナーを通じ、取引先の企業間の関係を深め、各企業の活力、地元の経済と環境活動の活性化に貢献していきたいと思っています。

### 参加者コメント

私ども、(株)一休庵は外食産業、観光レストラン業を中心として滋賀県内及び京都市内に13店舗を展開しておりますが省エネや生ゴミ処理問題などを含め環境に対する負荷の軽減に対し社会的使命を感じながらも日々実行できないことに頭を痛めております。キンカングループのLEDランプを導入するエスコセミナーに参加し、LEDに関する興味がさらに高まりました。今まで、省エネに取り組もうと思っても、導入コストが非常に高く、初期一括投資が決断できませんでしたが、ランニングコスト上の削減費用の中で支払うことができるこのシステムに大変魅力を感じ、早速、京都の2店舗においてLED導入計画を即断しました。成功すれば、将来他の店舗への導入も考え、環境貢献企業としての一翼を担うようになればと願っております。



株式会社一休庵 代表取締役  
上川 悟史 様



## 3 びわ湖環境ビジネスメッセ出展



びわ湖環境ビジネスメッセは、「環境と経済の両立」の基本理念のもと、毎年開催されます。2010年は、10月20日(水)~22日(金)の3日間、長浜ドームにて開催されました。過去最多313社の会社が出展し、37,000名が来場されました。我々キンカングループも、2010年で5回目の出展となり、廃棄物のトータルコーディネートやびわ湖の保全活動についてご紹介しました。3日間、最も多い1349名にブースにお越しいただきました。

### スタッフコメント

びわ湖環境ビジネスメッセに初めて参加させていただいたのは内定者研修の時でした。学生の頃、自分では環境に対して考えていたつもりでしたが、びわ湖環境ビジネスメッセに参加し、企業の方、来客される方とコミュニケーションを取る事により今まで以上に環境に対しての考えが深まりました。また、ブースに来ていただいたお客様が弊社の環境への取組に興味を持っていただいたりと、凄く勉強になり楽しい3日間になりました。びわ湖環境ビジネスメッセでは改めて環境に対して考える事ができる場なので、ぜひお越しください。



営業部 宮崎 亮太

## 4 地元サッカーチーム「MIO びわこ草津」の応援



日本アマチュアサッカーの最高峰のリーグであるJFL(Japan Football League)で闘う「MIOびわこ草津」を応援しています。キンカングループの中核をなす近畿環境保全株式会社の本社が草津市に、中間処理業を営む株式会社湖南リサイクルセンターがMIOのホームグラウンドがある湖南市にあることから、地域活性化活動の一環としてMIOへの支援活動に取り組んでいます。



# 循環型社会の構築に向けて

## 1 資源物で琵琶湖の環境保全

キンカングループは、お客様から提供していただいた空缶やペットボトル、古紙、廃天ぷら油などの資源物を、「えこら:循環型社会創造研究所」を通し、琵琶湖の環境保全と環境意識の促進に活かしています。

「マザーレイク滋賀応援寄附」とは？

琵琶湖の自然と滋賀の豊かな歴史的文化資産を次の世代に引き継ぐために使用されている滋賀県の基金です。



### ★ STAR スーパー スター

スーパーマーケットスター様の青空市場に参加し、買い物に来られたお客様から資源ごみを回収しています。また、スター様より排出された資源ごみによって、びわ湖の環境保全に貢献しています。



スター安養寺店の青空市にて

活動事例



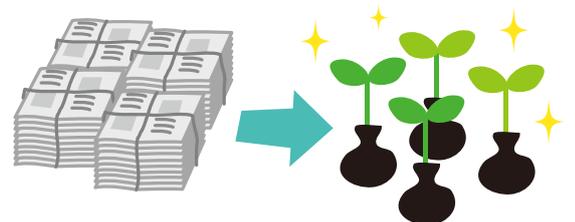
### 滋賀レイクスターズ

当社がスポンサーとして応援している「滋賀レイクスターズ」のホームゲーム会場にて、「エコステーション」と名付けた廃棄物回収場所から、資源ごみを回収し、環境保全活動をしています。



## 3 「よみうりくさつの森」プロジェクト

読売新聞の販売店様と共同で始めたこのプロジェクト。読売新聞を購読されているお客様から古新聞はもちろんのこと、カン・ペットボトル・雑誌などの資源物を寄付して頂いています。その販売収益の一部を当社を通して、内モンゴルの植林活動に使っています。紙を使う読売新聞様の企業責任と、また循環型社会の構築を目指す当社とのコラボレーションで生まれたこのプロジェクト、今後もますます拡大していきたいと思ひます。



## 2 滋賀レイクスターズを 応援しています

### お客様コメント

近畿環境保全様には、昨シーズンより、滋賀レイクスターズのホーム全26試合会場にてエコステーションを設置の上、年間約50,000人の来場者に対して資源ゴミの回収を呼びかけています。

エコステーションで回収した資源ゴミは、循環型社会創造研究所えこらを通じてマザーレイク応援寄付に役立てます。この取り組みを会場内でPRすることにより、分別回収をわかりやすく、さらに来場者の方が捨てたゴミが、資源として琵琶湖の環境保全に貢献しているということを知ってもらうことを目的としています。

肝心なのは、取り組みの継続です。今シーズンも近畿環境保全様と共に、試合会場から琵琶湖の環境について発信していきます。



株式会社滋賀レイクスターズ  
代表取締役  
坂井 信介 様



滋賀県初のプロバスケットボールチーム「滋賀レイクスターズ」をスポンサーとして応援しています。ホームゲームの会場において「エコステーション」と名付けた廃棄物回収場所で可燃ごみと資源ごみの回収を行っています。資源物の売却収益の一部を「循環型社会創造研究所えこら」を通し、琵琶湖の環境保全に寄付しています。当社は地域のスポーツチームを応援することにより、地域との交流や協働環境活動の活性化などに貢献することを目指しています。



朝日新聞2011年2月21日掲載

### お客様コメント

近畿環境保全(株)さんと私たち読売新聞草津販売店(草津西、草津中央、草津南)は古紙回収を通じてお付き合いをさせていただき、古紙回収により得た収益を植林活動と東日本大震災で親を亡くされた子どもたちに「あしなが育英会」を通じて支援活動を行っております。近畿環境保全(株)の西村社長とは社団法人草津青年会議所でお出会いし、「一緒に古紙回収をやりませんか?」とご提案を頂いてから1年半に渡って毎月回収を行ってきました。私たちのその活動はお客様に確実に認知されてきており大変感謝しております。今後は、古紙回収を通じての活動だけではなく、新聞というメディアを通して近畿環境保全(株)さんの環境活動、地域貢献の応援をもしていきたいと思っております。今後の活躍を期待しております。



読売新聞 草津西 代表 小寺 達義 様



## 4 エコキャップ推進活動

2009年8月より「NPO法人エコキャップ推進協会」の送付先として、この活動に参加しました。この活動にご理解頂いている全国の皆様より毎日たくさんのおキャップが送られてまいります。私たちは今後もこの活動を支援していきたいと思っております。

800個(2kg)のキャップの値段は子ども一人分のワクチンになります。ワクチンによって発展途上国の主な感染症から子どもたちの命を助けることができます。さらに、キャップをリサイクルすることによって新しく製品に生まれ変わり、CO<sub>2</sub>削減にも貢献できます。2010年度末現在、当社にて集まったキャップは5,257,516個(13144kg)であり、その個数は6,572人分のワクチンに等しいです。



5,257,516 個

6,572人分の  
ワクチン

2010年度末現在



写真提供 JCV/禁断転載

## 5 資源物回収運動 ～キンカン環境ポイント制度～



2004年から社内で資源物回収運動を行っており、今年で6年目となりました。資源物回収運動はポイント制度であり、缶やペットボトルなら、1個1ポイント、新聞などなら1kg1ポイントとして評価されます。近年では、資源物だけではなく、環境に関連するイベントや清掃活動に参加することでもポイントが与えられます。一番多く持参した20人の社員を毎年新年会で表彰しています。2008年度よりISO14001の目標の一つとしても取り組み、2010年度の目的は80ポイントでした。従業員の95%は目標を達成し、合計30,096ポイントが与えられました。

2010年度

95%  
目標達成

合計30,096ポイント



### スタッフコメント

私は、草津本社勤務で毎月ポイントの集計をしています。環境ポイント制度を始めて早、6年が過ぎようとしています。当初は構成員全員が一番取り組みやすい資源ゴミ回収でのポイント制に決めたことでしたが、年々取り組みに対しての自覚が薄れて来ているように思います。構成員全員が目標を達成することにより環境にもいいことをしています。「目標達成」と「環境への取り組み」をしっかり結び付き、構成員全員が更に積極的に取り組むようにこれからも宣言していきたいと思っています。私が毎回ポイントを達成出来ているのには、環境問題に前向きな友人達の協力があるの事です。これを機に少しでも多くの人に環境への関心を高めて貰えたらと思っています。



取締役  
玉置 紀代子

# 私たちの誇り

## 『第3回草津市地球温暖化防止大賞』



「草津市地球温暖化防止大賞」は、市内で行われている地球温暖化防止の取り組みを広く募集し、優れた取り組みの表彰を行うことで、温暖化防止に向けた取り組みを市内に普及拡大させていこうとするものです。(草津市HPより)

当社は今年の大賞において、優秀賞を受賞しました。表彰式は2011年3月5日に行われました。近畿環境保全㈱では2009年から草津市と「愛する地球のために約束する協定」を結んでいます。温暖化防止や環境保全への取り組みを約束し、草津市に報告しています。



## 『第2回しが低炭素リーダー賞』



社会のCO<sub>2</sub>排出量削減に寄与する製品やサービスを提供する事業を表彰し、その事業拡大を支援していきます(低炭素化事業部門)。さらに、社内のCO<sub>2</sub>排出量を削減する先進的な取組も表彰し、その取組を県内に広く発信していきます(削減取組部門)。(滋賀県エコ・エコノミープロジェクトのHPより)

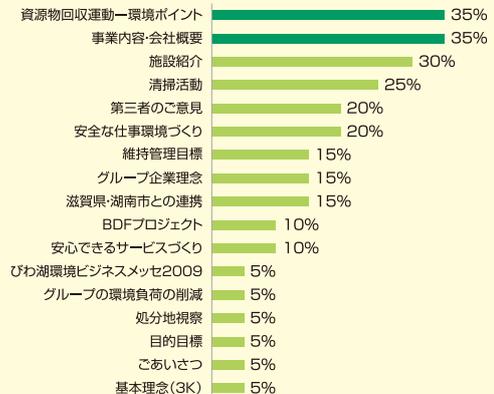
当社は削減取組部門でリーダー賞を受賞しました。表彰式は2011年6月17日に行われました。



## 「環境報告書2010」 アンケート集計結果について

「環境報告書2010」に対し、20名(11名男性、9名女性)の読者様よりアンケートのご回答をいただきました。報告書の内容は「充実している」、「分かりやすい」、「デザインが良い」と答えていただいた方が最も多かったです。文字が小さすぎるというご意見もあり、今回の報告書の文字を少し大きくしました。最も興味を持たれた項目は「資源物回収運動～環境ポイント」と「事業内容・会社概要」でした。

### 興味を持たれた項目



### アンケート集計結果



## 第三者のご意見

2005年にISO14001(環境マネジメントシステム)認証登録をされて以来、一連の環境マネジメント技法による継続的改善が積極的に実施されていることを高く評価します。ISO14001システム導入による評価ポイントとして、

### 1) 継続的改善のためのPDCAの定着化 2) 環境パフォーマンスの向上

の2点が特に重要視されますが、いずれもマンネリ化せず着実に効果を挙げています。

特筆すべきは、トップマネジメントのCSR(社会的責任)に対する積極的行動力と従業員全員参加による改善活動です。

前者では、廃プラスチック類のゼロエミッションリサイクル目標、地域へのBDFプロジェクト拡大協力などがあり、後者には、従業員提案による「環境ポイント運動」があります。環境パフォーマンス向上=経営パフォーマンス向上と成り、利害関係者、マネジメント、従業員の3者が認め合う成果が拡大することを期待します。



2011.10.3 新日本認証サービス(株)  
主任審査員 高橋 栄一 様

## あしがき

以上、キンカングループの2010年度の環境活動・事業に関する報告でした。

2010年度の新たな取り組みは、ヨシでびわ湖を守るネットワークへの参加や資源物によるびわ湖の環境保全活動でした。そのため、異業種の企業や市民の方々とふれあう機会が増え、みんなで力を合わせると大きな事ができると実感した一年でした。滋賀県にある私たちキンカングループだからこそ、この地域を愛し、びわ湖の環境保全に貢献し、より良い循環型社会の実現に向けて皆様とともに歩んでまいります。

また、2011年3月11日の大震災が発生し、多くの尊い命が亡くなりました。廃棄物処理業者の一員としても、そして日本国民のひとりとしても、全力で復興支援に努めてまいります。

当グループの基本理念「3K」環境・感動・改革を常に意識しながら行動すること、かつ社会(自然環境・地域)との調和を目指すことはスタッフ全員の動機付けとなっています。

環境に配慮した事業展開を考え、「人と地球にいいコミュニケーションパートナー」を理念に、地域社会との協働・連携を忘れずに、常に革新的に行動することによって、ステークホルダーの皆様へ感動を与えられる企業となれるよう、引き続き活動に邁進してまいります。

## 作成者からのひとこと

まずは、環境報告書にコメントしていただいた方々、制作に関わってくださった方々に心より感謝を申し上げます。

キンカングループの環境報告書を作成するのは3年目です。活動内容が多くなり、皆様にお伝えすることが増えたことを嬉しく思います。

デザイン、内容とも分かりやすく親しみのある環境報告書ができるように工夫しましたが、至らない点もあったのではないかと思います。

今後の成長のためにでも、ぜひご意見をお聞かせください。

来年も皆様にとって有意義な環境報告書を作ってまいりますので、これからもぜひキンカングループをどうぞよろしくお願い申し上げます。



環境企画室  
藤田 アニコー

お問い合わせ

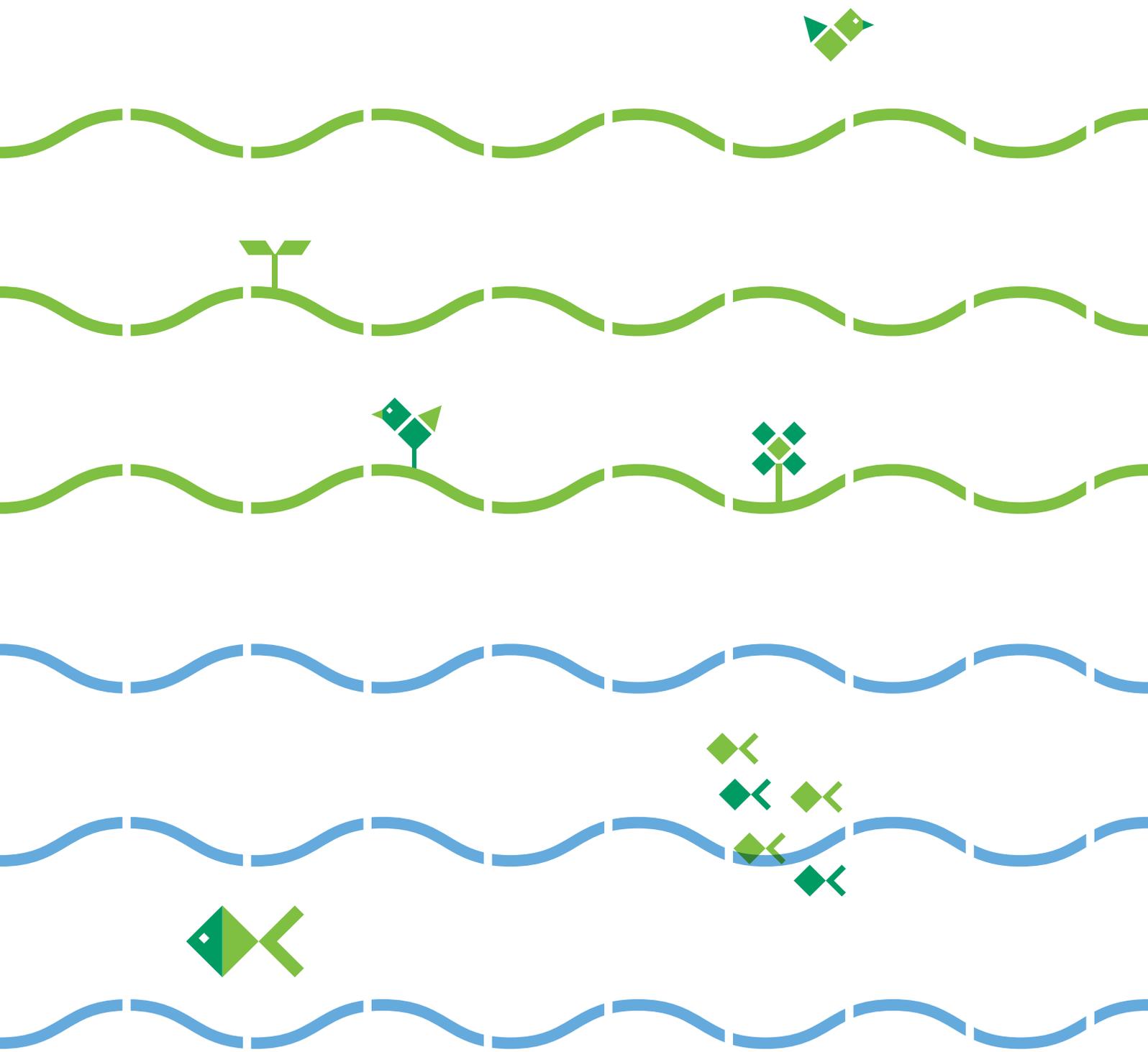
近畿環境保全株式会社 営業本部

〒520-3114 滋賀県湖南市石部口3丁目6番13号

TEL 0748-77-7288 FAX 0748-77-7299

E-mail: info@kin-kan.co.jp

URL: <http://www.kin-kan.co.jp> 担当：藤田



## KINKAN GROUP

近畿環境保全株式会社

株式会社湖南リサイクルセンター

株式会社きぶら

有限会社ラゴ